

# みどりのリサイクル

## が始まります

家庭から出るせん定した枝や草花などをごみとして燃やさずに、土壌改良材として再利用する取り組みです。ごみの減量と資源の有効活用のため、できる限り収集場所に出すようご協力をお願いします。

☎ごみ・リサイクル課 ☎72・3126

### みどりのリサイクルの出し方

#### 対象

- せん定した木の枝  
枝・幹は1本の長さ100cm・太さ(直径)20cmまでにして天然繊維のひもで束ねましょう。
- 草花・落ち葉  
透明・半透明の袋に入れましょう。



#### 収集地区

- 花川南、花川北、樽川地区の一部
- 花畔地区の一部 ●緑苑台地区

#### 収集日

5/20(水)、6/17(水)、7/15(水)・29(水)、8/19(水)、9/16(水)・30(水)、10/21(水)、11/18(水)

#### 排出方法

8時30分までに「みどりのリサイクル」の看板がある最寄りの公園または緑地帯へ

#### 収集地区以外にお住まいの方・障がいや高齢などで収集場所に出せない方

みどりのリサイクル対象物に限り、無料で戸別収集しますが、リサイクルにはなりません。下記収集日の収集時間までに出してください。

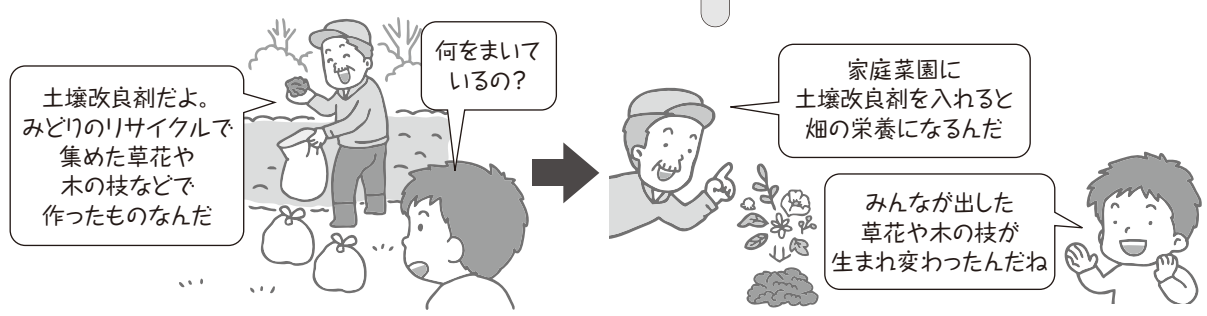
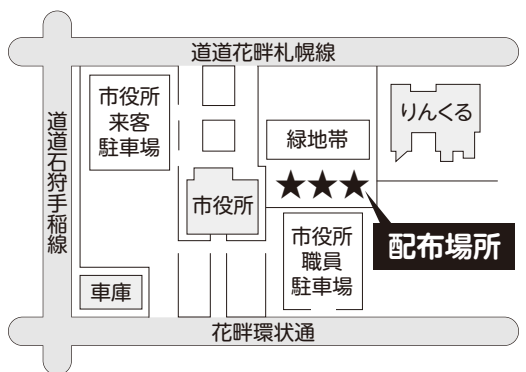
- 木曜が「燃やせるごみ」の日の収集地区は上記収集日の翌日
- 金曜が「燃やせるごみ」の日の収集地区は上記収集日の翌々日

※枝・幹は1本の長さ50cm・太さ(直径)10cmまでにして、50cm未満の束にして出してください。また、草花・落ち葉は「透明・半透明の袋」に入れてください

### みどりのリサイクル成果品(土壌改良材)を配布します

皆様のご協力により「みどりのリサイクル」で回収した枝葉や草花を再利用し、土壌改良材を作りました。家庭菜園やガーデニングなどに、ぜひご利用ください。

- 配布日時  
5/16(土)・17(日)9時30分～12時、13時～15時
- 配布場所  
市役所職員駐車場(花川北6・1)



**お願い** 袋や軍手は各自で用意し、運搬も各自の責任で行ってください。また、多くの方が利用できるよう、大量の持ち帰りや事業目的での利用はご遠慮ください。





# 夢の続きは、石狩で。

「石狩から、新たな野球の歴史がはじまる」——この言葉と共に、独立リーグのプロ野球球団「石狩レッドフェニックス」が誕生したのは6年前のことです。これまで1000人を超える若者たちが、「野球」という夢を追いかけてこの地に集いました。今シーズンの選手は31人。そのうち26人が海外や道外の出身者です。彼らは石狩に暮らし、石狩で働きながら、このまちの名を背負い、プレーしています。

彼らの活動は、グラウンドの中に、

\* \* \*

とどまりません。地域イベントへの参加から、子どもたちへのスポーツ振興、安全・安心なまちづくり、さらには地域の魅力発信まで多岐にわたります。いまや彼らは、まちの活性化に欠かせない存在なのです。

だからこそ、選手生活を終えた後も、彼らのこれからの日々がこのまちと共に豊かなものであってほしい——そう願わずにはいられません。

石狩レッドフェニックス  
バッテリーコーチ  
かにざわともき  
**蟹澤智毅**さん



2022年、石狩レッドフェニックスに入団した蟹澤智毅さんと野口寛人さんは、捕手と投手として共にチームの勝利に貢献してきましたが、2024年、その現役生活に幕を下ろします。

蟹澤さんは神奈川県横浜市出身。野口さんは千葉県野田市出身。26歳の二人が選んだのは、球団職員としての新たな道でした。

石狩レッドフェニックスの選手から球団職員へと一步を踏み出した若者たちがいます。彼らの新たな挑戦に秘められた、強い決意を取材しました。

石狩レッドフェニックス  
管理本部 営業  
のくちひろと  
**野口寛人**さん



「この球団には本当にお世話になりました。その分、恩返しをしたいという気持ちが強くて。元選手だからこそ現場を理解し、できることがあるのではないかと思ひ、球団に自分から雇ってほしいと交渉しました」

一方、野口さんにも選手時代からの夢があります。それは、レッドフェニックスの試合を満席にすること。「開幕戦には多くのお客さまに来ていただけるようになりましたが、まだまだです。自分が営業担当として、まずは4千人を目標に、観客数を増やしていきたいです」

その実現のためにも、チームのさらなる強化が欠かせません。今シーズンからバッテリーコーチを務める蟹澤さんは強い意気込みを見せます。

「全国に通用する選手を育てたい。そしてNPBのドラフト会議で『石狩レッドフェニックス』の名が呼ばれて…想像するだけでワクワクしませんか？」

野口さんはしみじみ語ります。

「僕はこのまちに受け入れてもらったという感謝の思いが強いです。だから、球団の活動が地域の活性化につながって、まちに貢献できたら、これほ

※NPB：日本野球機構